



## はじめに

我が国の国土面積の2割、森林面積の3割に当たる国有林野の管理経営は、森林経営の用に供するものとされた国有財産として、①国土の保全その他国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、併せて、②林産物を持続的かつ計画的に供給し、③国有林野の活用によりその所在する地域の産業の振興又は住民の福祉の向上に寄与することを目標として行うものとされている。

このような中で、森林に対する国民の要請は、国土の保全や水源の涵養<sup>かん</sup>に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり<sup>もり</sup>等<sup>り</sup>の面で高まっており、特に、地球温暖化の防止や生物多様性の保全については国有林への期待が大きくなっている。

また、国有林野と民有林野を通じた公益的機能の発揮が強く期待されているとともに、戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中、国有林野事業については、民有林への指導やサポートなど我が国の森林・林業の再生に貢献することが求められている。

こうしたことを踏まえ、国有林野事業については、公益的機能の発揮のための事業や民有林への指導やサポート、木材の安定供給等の事業を、民有林に係る施策との一体的な推進を図りつつ、一層計画的に実施していくため、平成25年度から、それまでの特別会計により企業的に運営する事業から一般会計において実施する事業に移行したところである。

従って、国有林野事業は、その目標の下、森林・林業や国有林野事業に対する国民の多様な要請と期待を踏まえつつ、一般会計において国民共通の財産である国有林野を名実ともに「国民の森林<sup>もり</sup>」とするよう、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、その組織・技術力・資源を活用して森林・林業の再生へ貢献するための取組を進めていくこととする。

本計画は、このような国有林野を取り巻く状況を踏まえ、公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を推進するとともに、各々の課題に国有林として率先して取り組むこととし、今後5年間の千葉南部森林計画区における国有林野の管理経営に関する基本的な事項について定めるものである。

具体的な取組の実施に当たっては、地域住民の理解と協力を得ながら、関係する国の地方部局、県、市町村等の行政機関とも一層の連携を図りつつ、この計画に基づいて適切な管理経営を行うこととする。

# 千葉南部森林計画区の国有林野位置図



凡 例	
	森林管理署界
	森林計画区界
	国有林野
	森林管理署等
	森林事務所

## 目 次

I 国有林野の管理経営に関する基本的な事項	1
1 国有林野の管理経営の基本方針	1
（1）森林計画区の概況	1
（2）国有林野の管理経営の現況及び評価	2
ア 計画区内の国有林野の現況	2
イ 主要施策に関する評価	4
① 伐採量	4
② 更新量	4
③ 保護林	5
④ 緑の回廊	5
⑤ レクリエーションの森	5
（3）持続可能な森林経営の実施方向	6
ア 生物多様性の保全	6
イ 森林生態系の生産力の維持	7
ウ 森林生態系の健全性と活力の維持	7
エ 土壌及び水資源の保全と維持等	7
オ 地球的炭素循環への森林の寄与の維持	8
カ 社会の要望を満たす長期的・多面的な社会・経済的便益の維持及び増進	8
キ 森林の保全と持続可能な経営のための法的、制度的及び経済的枠組	8
（4）政策課題への対応	9
2 機能類型に応じた管理経営に関する事項	10
（1）機能類型毎の管理経営の方向	10
ア 山地災害防止タイプにおける管理経営の指針その他山地災害防止タイプ に関する事項	12
① 土砂流出・崩壊防備エリア	12
② 気象害防備エリア	12
イ 自然維持タイプにおける管理経営の指針その他自然維持タイプ に関する事項	13
ウ 森林空間利用タイプにおける管理経営の指針その他森林空間利用タイプ に関する事項	13
エ 水源涵養タイプにおける管理経営の指針その他水源涵養タイプ に関する事項	14
（2）地域ごとの機能類型の方向	15
ア 上野・大多喜地域	15
イ 上総地域	16
ウ 湊地域	16
3 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項	17
（1）低コスト化を実現する施業モデルの展開と普及	17
（2）林業事業体の育成	17
（3）民有林と連携した施業の推進	18
（4）森林・林業技術者等の育成等	18
（5）林業の低コスト化等に向けた技術開発	18
（6）その他	18

4	主要事業の実施に関する事項	19
(1)	伐採総量	19
(2)	更新総量	19
(3)	保育総量	19
(4)	林道等の開設及び改良の総量	19
II	国有林野の維持及び保存に関する事項	20
1	巡視に関する事項	20
(1)	山火事防止等の森林保全管理	20
(2)	境界の保全管理	20
(3)	入林マナーの普及・啓発	20
2	森林病虫害の駆除又はそのまん延防止に関する事項	20
3	特に保護を図るべき森林に関する事項	21
(1)	保護林	21
ア	林木遺伝資源保存林	21
イ	植物群落保護林	22
(2)	緑の回廊	22
4	その他必要な事項	23
(1)	野生動物等による被害に関する事項	23
(2)	希少猛禽類の生息に関する事項	23
(3)	溪畔周辺の取扱いに関する事項	23
(4)	その他	23
III	林産物の供給に関する事項	24
1	木材の安定的な取引関係の確立に関する事項	24
2	その他必要な事項	24
IV	国有林野の活用に関する事項	25
1	国有林野の活用の推進方針	25
(1)	レクリエーションの森	25
2	国有林野の活用の具体的手法	26
3	その他必要な事項	26
V	公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項	27
1	公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な方針	27
VI	国民の参加による森林の整備に関する事項	28
1	国民参加の森林に関する事項	28
(1)	ふれあいの森	28
(2)	社会貢献の森	28
(3)	遊々の森	29

2	分収林に関する事項	29
3	その他必要な事項	29
	(1) 森林環境教育の推進	29
	(2) 森林の整備・保全等への国民参加	29
VII	その他国有林野の管理経営に関し必要な事項	30
1	林業技術の開発、指導及び普及に関する事項	30
	(1) 林業技術の開発	30
	(2) 林業技術の指導・普及	30
2	地域の振興に関する事項	30
3	その他必要な事項	30
	森林の管理経営に関する指針	別冊

# I 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

## 1 国有林野の管理経営の基本方針

### (1) 森林計画区の概況

本計画の対象は、千葉県南部に位置し、利根川広域流域に含まれる千葉南部森林計画区<sup>\*</sup>内の国有林野 8 千 ha であり、当森林計画区の森林面積の 8 % を占めている。

当計画区は、標高 300 ~ 400 m の<sup>あたごやま</sup>愛宕山、<sup>もときよすみやま</sup>元清澄山等の房総丘陵からなり、全般的に小さな起伏に富んだ複雑な地形を呈し、<sup>いすみがわ</sup>養老川、<sup>おびつがわ</sup>夷隅川、小櫃川等の河川が丘陵地帯を屈曲蛇行しながら太平洋または東京湾に注いでいる。

国有林野は、これらの河川の源流部に位置し、全体の 87 % が水源かん養保安林<sup>\*</sup>を主体とした保安林に指定されており、地域の水がめとして重要な役割を担っている。

また、国有林野の利用形態をみると、首都圏に近く、南房総<sup>たかごやま</sup>国立公園、<sup>たかごやま</sup>県立高宕山自然公園等があることから、森林を利用したレクリエーション等の保健休養の場として多くの人々に利用されている。

林況<sup>\*</sup>は、林地面積の 70 % がスギやヒノキなどを主とする人工林、30 % がナラ類などの天然林である。

<sup>\*</sup>【千葉南部森林計画区】  
全国では 158 の森林計画区があり、千葉県では、千葉北部、千葉南部の 2 森林計画区に区画されています。

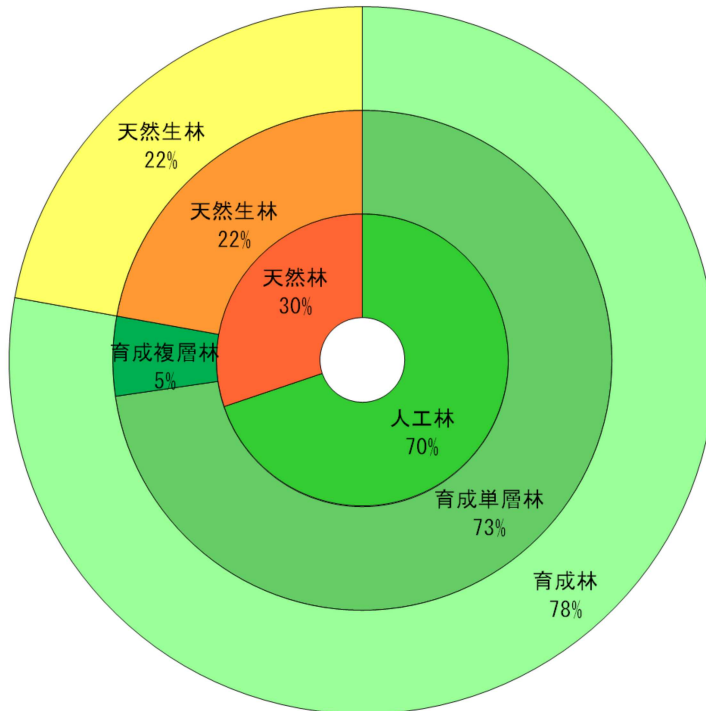
<sup>\*</sup>【保安林制度】  
保安林制度<sup>かん</sup>は、森林の有する水源の涵養、災害の防止、生活環境の保全・形成等の公益的機能を特に発揮させる必要のある森林を保安林として指定し、その森林の保全と適切な森林施業の確保を図ることによって目指す機能の維持増進を図り、公益的機能を達成しようとするものです。

<sup>\*</sup>【林況】  
樹種、樹高、下層植生（森林の下層に生育している低木や草本類）の状況など、現在の森林の様子。

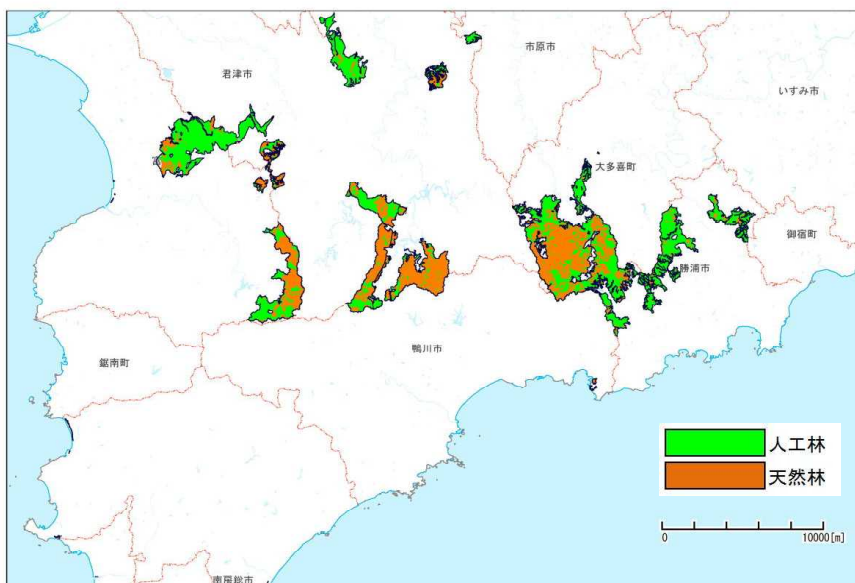
## (2) 国有林野の管理経営の現況及び評価

### ア 計画区内の国有林野の現況

当計画区の森林の現況（平成 26 年 3 月 31 日時点）は、人工林を中心とする育成林が 5,776ha（育成単層林<sup>※</sup> 5,394ha、育成複層林<sup>※</sup> 382ha）、天然生林<sup>※</sup>が 1,646ha となっている。（図－1－1、図－1－2 参照）



図－1－1 人工林、天然林及び林種<sup>※</sup>の区分（面積比）



図－1－2 人工林、天然林の分布状況

※【育成単層林】

森林を構成する林木の一定のまとまりを一度に全部伐採し、人為（植栽、更新補助（天然下種更新のための地表かきおこし、刈り払い等）、芽かき、下刈、除伐、間伐等の保育作業）により単一の樹冠層を構成する森林として成立させ維持する施業が行われている森林。

※【育成複層林】

森林を構成する林木を択伐等により部分的に伐採し、人為により複数の樹冠層を構成する森林（施業との関係上一時的に単層となる森林を含む。）として成立させ維持する施業が行われている森林。

※【天然生林】

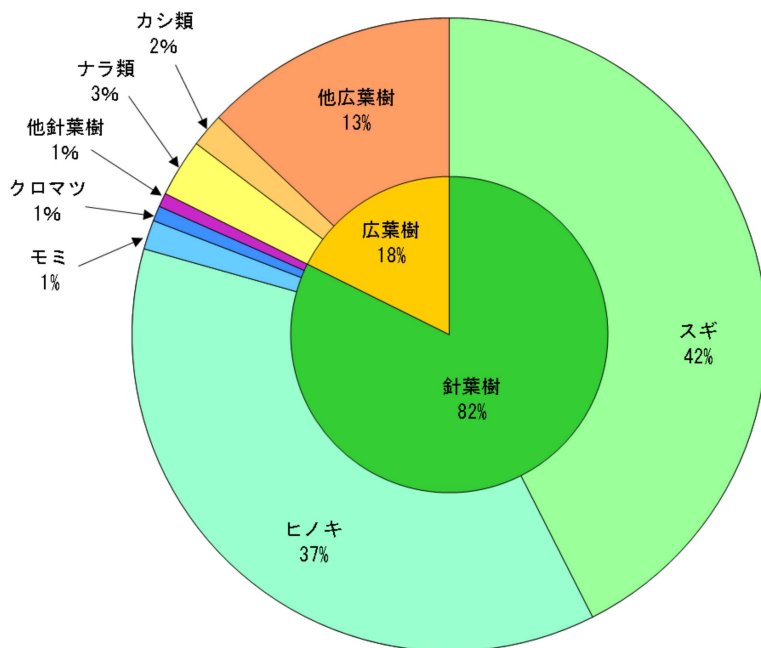
主として天然力を活用することにより森林を成立させ維持する施業が行われている森林。

※【林種】

森林の成立状態及び施業の方法により区分したもの（育成単層林、育成複層林、天然生林）。



主な樹種別の材積をみると、針葉樹ではスギ 632 千 $m^3$ 、ヒノキ 547 千 $m^3$ 、モミ 22 千 $m^3$ 、クロマツ 12 千 $m^3$ 、アカマツ等その他針葉樹 11 千 $m^3$ 、広葉樹ではナラ類 44 千 $m^3$ 、カシ類 26 千 $m^3$ 、クスギ等その他広葉樹が 193 千 $m^3$ となっている。(図一2 参照)

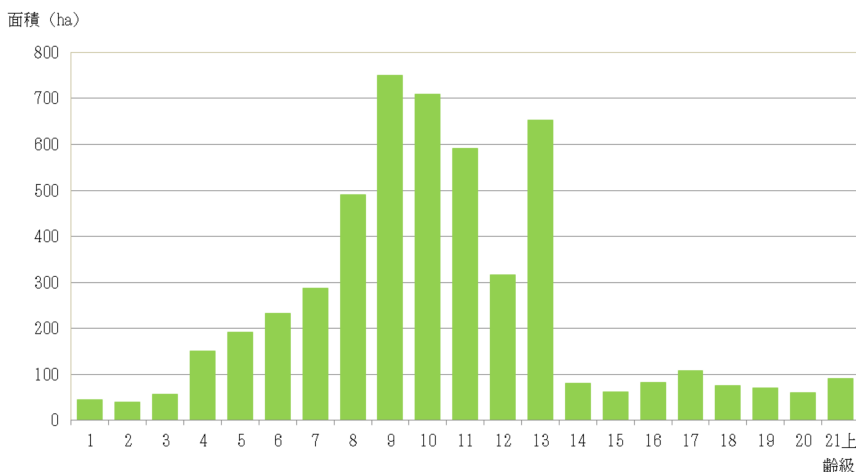


図一2 主な樹種構成 (材積比)

人工林について見ると、齢級\*構成 (面積別) では図一3のとおりであり、1 齢級から 4 齢級が 6 %、間伐適期である 5 齢級から 8 齢級が 23 %、9 齢級以上の林分が 71 %となっている。(図一3 参照)

\*【齢級】

林齢 (樹木の年齢) を 5年の幅にくくったもの。  
 1 齢級は 1～5 年生、  
 2 齢級は 6～10 年生、  
 10 齢級は 46～50 年生  
 などとなります。



図一3 人工林の齢級構成 (面積別)

## イ 主要施策に関する評価

前計画の平成 22 年度～平成 26 年度における当計画区での主な計画と実行結果は次のとおりとなっている（平成 26 年度は、実行予定を計上した）。

### ① 伐採量

主伐<sup>\*</sup>は、分収林<sup>\*</sup>の契約期間が満了となる箇所を中心に計画したが、契約延長（伐期の延長）等により実行の一部を見合わせたことから計画量に対して 69 %であった。

間伐<sup>\*</sup>は、地球温暖化防止対策に寄与すべく実施したことから、計画量に対して 99 %（材積）であった。

（単位：材積 $m^3$ ）

	前 計 画		実 績	
	主 伐	間 伐	主 伐	間 伐
伐採量	40,355	107,384 (1,194ha)	27,787	105,837 (877ha)

注) 1 ( ) は間伐面積である。

2 前計画の臨時伐採量<sup>\*</sup>は、主伐に含めた。

### ② 更新<sup>\*</sup>量

人工造林は、主伐箇所の確実な更新を図るため、順次造林を実施したが、伐採・更新の一部を今期計画期間で行うこととしたため、計画に対し 42 %だった。

天然更新は、伐採・搬出完了後の更新状況調査を実施し、更新完了基準<sup>\*</sup>を満たした林分は 11 %であり、これら以外の林分は、今期計画期間であらためて更新状況調査を実施する予定である。

（単位：面積 ha）

	前 計 画		実 績	
	人工造林	天然更新	人工造林	天然更新
更新量	105	28	44	3

#### \*【主伐】

更新を伴う伐採であり、一定のまとまりの林木を一度に全部伐採する皆伐、天然更新に必要な種子を供給する親木を残し、50 %以内の伐採率で伐採する漸伐、30 %以内（人工林は 40 %以内）で繰り返し抜き伐りする択伐、複層林造成のために行う複層伐などがあります。

#### \*【分収林】

P29 参照

#### \*【間伐】

森林の育成過程で密度が高い林の木を間引き、残した木の成長や形質の向上、森林の機能の維持増進を図る伐採のことです。

#### \*【臨時伐採量】

国有林野施業実施計画において箇所ごとに伐採指定を行い、指定された箇所での伐採を原則とするものの、これのみによれば、非常災害や緊急の需要、円滑な事業実行に支障が生じるおそれがあることから、例外的に伐採指定箇所以外でも伐採できる数量で見込み数量を計上しています。

#### \*【更新】

主伐に伴って生じるものであり、植栽による人工造林、天然力を活用し種や根株からの芽生えにより森林を育成する天然更新があります。

#### \*【更新完了基準】

搬出完了後 5 年目に樹高 30 cm 以上の高木性の天然木が 5,000 本/ha 以上、林地に均等に成立した時を目安とします。

③ 保護林\*

当計画区に設定している保護林について、現状を把握するため、平成 25 年度に森林や動植物等の状況に関するモニタリング\*を実施した。

その結果、各保護林とも保護対象である群落は概ね健全な状態を維持していることが確認されたが、ニホンジカによる下層植生等への食害等が見られ、下層植生の発達を妨げている箇所もあることから、その影響を調査し、被害防止対策が必要である。

(単位：面積 ha)

保護林の種類	前計画期首		前計画期末	
	箇所数	面積	箇所数	面積
林木遺伝資源保存林	1	170	1	170
植物群落保護林	1	4	1	4
計	2	175	2	175

④ 緑の回廊

該当なし。

⑤ レクリエーションの森\*

レクリエーションの森は、国民の保健・文化的利用上特に重要な区域として、①自然休養林、②自然観察教育林、③風景林、④森林スポーツ林、⑤野外スポーツ地域、⑥風致探勝林、⑦その他（レクリエーションの森施設）に種類分けし、広く国民に提供している森林である。

これらのうち、当計画区ではレクリエーションの森として、自然観察教育林 1 箇所、風景林 2 箇所を選定し、利用者の安全や景観の維持に配慮した管理を行ってきた。

東京に近く、都市近郊等に位置していることから、自然観察をはじめ、保健休養の場として利用されている。

(単位：面積 ha)

種類	前計画期首		前計画期末	
	箇所数	面積	箇所数	面積
自然観察教育林	1	104	1	104
風景林	2	123	2	123
計	3	227	3	227

\*【保護林】  
P21 参照

\*【モニタリング】  
あるものの実態・状態を継続的に観測・観察することです。

\*【レクリエーションの森】  
優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した森林を「レクリエーションの森」に設定し、国民の皆さんに提供していません。

### (3) 持続可能な森林経営の実施方向

国有林野の管理経営に当たっては、開かれた「国民の森林<sup>もり</sup>」の実現を図り、現世代や将来世代へ森林からの恩恵を伝えるため、住民の方々の意見を聴き、機能類型区分<sup>\*</sup>に応じた森林の適切な整備・保全等による持続可能な森林経営に取り組んでいくとともに、国有林野事業の組織・技術力・資源を活用し、民有林への指導やサポートを通じて森林・林業の再生に貢献していくこととする。

また、持続可能な森林経営については、日本はモントリオール・プロセス<sup>\*</sup>に属しており、この中で国全体として客観的に評価するため7基準（54指標）が示されている。当計画区内の国有林野について、この基準を参考に取り組んでいる対策及び森林の取扱い方針は次のとおりである。

#### ア 生物多様性<sup>\*</sup>の保全

（取組内容）

地域の特性に応じた多様な森林生態系<sup>\*</sup>を保全していくため、間伐の推進等により森林の健全性を確保するとともに、希少な野生動植物が生息・生育する森林について適切に保護するほか、施業を行う場合でも適切な配慮を行う。

また、人工林の針広混交林化、広葉樹林化、野生動植物の生息・生育地や溪流環境の保全・復元など生物多様性を維持・向上させるため、赤谷プロジェクトの取組（利根上流森林計画区（群馬県）の地域管理経営計画別冊「赤谷の森管理経営計画書」を参考）を先進事例として取り組む。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・人工林の群状・帯状択伐による針広混交林化
- ・皆伐箇所分散と伐期の長期化との組み合わせによる森林のモザイク的配置
- ・保護林の適切な維持・管理

<sup>\*</sup>【機能類型区分】  
P10 参照

<sup>\*</sup>【モントリオール・プロセス】  
欧州以外の温帯林を対象に森林経営の持続可能性を把握・分析・評価するための「基準・指標」の策定・適用に向けた国際的な取組です。

<sup>\*</sup>【生物多様性】  
生物多様性条約によれば「生物多様性とは、すべての分野、特に陸上生態系、海洋及び水生生態系並びにこれが複合した生態系における生物の変異性をいうものであり、種内の多様性（遺伝的多様性）、種間の多様性（種多様性）、及び生態系の多様性（生態系多様性）を含むものである」と記されています。

<sup>\*</sup>【森林生態系】  
森林群落の生物の生命活動と、それを取り巻く無機的環境との間の物質とエネルギーのやり取り（光合成など）、また環境資源をめぐる生物間相互の競争や繁殖のための共生関係など、森林群落構成要素の間に見られる相互作用の体系的な現象の総称のことです。

## イ 森林生態系の生産力の維持

(取組内容)

森林としての成長力を維持し健全な森林を整備していくため、間伐等の適切な森林整備と主伐後の適確な更新を行うことにより、公益的機能の発揮と両立した木材の生産を行う。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・利用期に達した人工林の間伐及び主伐を積極的に推進
- ・主伐後の確実な再生林又は天然力を活用した更新
- ・計画的な森林整備
- ・森林の管理、効率的な森林整備を可能とする路網<sup>\*</sup>の整備

## ウ 森林生態系の健全性と活力の維持

(取組内容)

外的要因による森林の劣化を防ぐため、野生鳥獣や山火事等から森林を保全するとともに、被害を受けた森林の回復を行う。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・ニホンジカによる食害、剥皮被害防止対策
- ・山火事を防止するための巡視

## エ 土壌及び水資源の保全と維持等

(取組内容)

侵食等から森林を守り、森林が育む水源の涵養<sup>かん</sup>のため、山地災害により被害を受けた森林の整備・復旧や公益的機能の維持のために必要な森林の保全を行うとともに、森林施業においても裸地状態となる期間の縮小、尾根筋や沢沿いでの森林の存置を行う。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・伐採跡地の適確な更新による裸地状態の減少
- ・溪畔沿い、急斜地等における皆伐の回避
- ・下層植生の発達を促すための間伐等の実施
- ・治山事業の計画的な実施及び災害時における迅速な復旧対策の実施

<sup>\*</sup>【路網】

P19の「林道」及び「林業専用道」を参照。

<sup>\*</sup>【水源涵養機能】

森林の樹木及び地表植生によって形成された落葉、落枝、林地土壌の作用によって、山地の降雨を地下に浸透させ、降雨直後の地表流下量を減少させる機能です。

豪雨時、融雪時等の増水時に流量ピークを下げる洪水調節機能と、渇水時の流量を平常の状態に近づけさせる渇水緩和機能とによって、洪水の防止及び水資源の確保に寄与します。

## オ 地球的炭素循環への森林の寄与の維持

(取組内容)

二酸化炭素の吸収源・貯蔵庫となる森林を確保するため、森林の蓄積を維持・向上させるとともに森林資源の循環利用を推進する観点から齢級構成の平準化を図る。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・主伐と再生林による森林資源の若返りを推進
- ・造林、間伐等の森林整備の推進
- ・優良種苗の導入
- ・木材利用の推進

## カ 社会の要望を満たす長期的・多面的な社会・経済的便益の維持及び増進

(取組内容)

国民の森林に対する期待に応えるため、森林が有する多面的機能の効果的な発揮とともに、森林浴や森林ボランティア活動、環境教育等、森林と人とのふれあいの場の提供や森林施業に関する技術開発等に取り組む。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・機能類型区分に応じた適切な森林の管理経営の実施
- ・レクリエーションの森の提供と利用促進
- ・国民参加の森林づくり<sup>もり</sup>\*の推進
- ・花粉症発生源対策としての無花粉スギ等の導入
- ・森林環境教育の推進

\*【国民参加の森林づくり<sup>もり</sup>】  
P28 参照

## キ 森林の保全と持続可能な経営のための法的、制度的及び経済的枠組

(取組内容)

上記ア～カに記述した内容を着実に実行し、「国民の森林<sup>もり</sup>」として開かれた管理経営を行うため、国有林野に関連する法制度に基づく各計画制度の適切な運用はもとより、管理経営の実施に当たっては国民の意見を聴きながら進めるとともに、モニタリング等を通じて森林資源の状況を把握する。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・地域管理経営計画等の策定
- ・「国有林モニター」<sup>もり</sup>\*の設置や計画策定に当たって地域住民等から意見聴取
- ・関東森林管理局の HP <sup>もり</sup>\*等の充実による情報発信

\*【国有林モニター】  
国有林野に関心のある国民の皆さんへ幅広く情報を提供するとともに、アンケートや意見交換を通じていただいたご意見・ご要望等を管理経営に活かすための制度です。モニターは公募により選定。

\*【ホームページアドレス】  
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>

#### (4) 政策課題への対応

災害からの流域保全や地球温暖化防止、貴重な森林の保全、木材の計画的な供給、民有林との連携等、地域から求められる国有林野への期待に応えていくため、次のとおり当計画区内での主な個別政策課題へ対応していくことを目標とする。

視 点	主 な 取 組 目 標
公益重視の管理経営の一層の推進	<p><b>【地域の安全・安心を確保する治山対策の展開】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人家等保全対象に近接する山地災害の危険がある箇所について、山腹工1箇所、保安林整備252haの治山事業を計画。</li> </ul> <p><b>【生物多様性の保全】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「元清澄山林木遺伝資源保存林」等の保護林については、適切な保護を図るとともに、モニタリングを実施。</li> </ul> <p><b>【森林吸収源対策の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林吸収源対策として、間伐等の適正な森林の整備や木材利用等を推進。</li> <li>・ 将来にわたり森林の二酸化炭素吸収量を確保する観点から、主伐及び確実な再生林による年齢構成の平準化を推進。</li> </ul>
地域の森林・林業再生への貢献	<p><b>【木材の安定供給】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スギやヒノキを中心とした木材を安定的に供給するために、効果的かつ効率的な伐採や路網整備を実施し、低コスト化に向けた取組を推進。</li> </ul> <p><b>【民国連携した森林整備の実施】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民有林と国有林が連携して効率的な路網整備や間伐等の森林整備に取り組むため、森林共同施業団地の設定や公益的機能維持増進協定を活用し、民・国連携した森林施業を推進。</li> </ul>
国民の森林としての管理経営	<p><b>【国民参加の森林づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ふれあいの森」等において、必要な助言や技術指導等の支援を実施し、国民が自主的に行う森林整備活動を推進。</li> </ul> <p><b>【森林とのふれあい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「レクリエーションの森」等については、広報活動等を通し周知するなど、森林レクリエーションの場として利用を推進。</li> </ul>

## 2 機能類型に応じた管理経営に関する事項

### (1) 機能類型毎の管理経営の方向

当計画区の特徴を活かし、森林に対する国民の要請が、国土保全や水源の涵養<sup>かん</sup>に加え、地球温暖化防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等多様化していることを踏まえ、林産物の供給や地域振興への寄与にも配慮しつつ、開かれた「国民の森林」の実現に向けた取組を推進していくため、国有林の地域別の森林計画との整合に留意し、国有林野を国土の保全や気象害<sup>\*</sup>の防備を重視する「山地災害防止タイプ」、豊かな生態系の維持・保存を重視する「自然維持タイプ」、保健・文化・教育的な利用を重視する「森林空間利用タイプ」及び水源の涵養<sup>かん</sup>を重視する「水源涵養タイプ」の4つに区分し、次のような管理経営を行うこととする。この場合、国有林の地域別の森林計画における公益的機能別施業森林と本計画で定める機能類型区分との関係については、表-1のとおりである。

なお、機能類型に応じた機能の発揮と整合性を図りつつ、針葉樹林、広葉樹林及び針広混交林の林相の維持・改良等に必要な施業の結果、得られる木材を有効利用し、政策的・計画的に供給することとする。特に、再生可能エネルギーとしてのバイオマス利用等、地域のニーズに応じて木材を供給することとする。

また、公益的機能発揮に支障を及ぼさない範囲で齢級構成の平準化を図る主伐と再生林を計画的に行うこととする。

希少野生動植物の生息・生育が確認されている地域で森林施業等を予定する場合は、関東森林管理局に設置している「希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する検討委員会」において、施業等を行う場合の留意点等について専門家の立場からの意見を聴取し、その意見を踏まえて対応することとする。

<sup>\*</sup>【気象害】

風、潮、霧など気象要素によって発生する被害です。



表－1 機能類型と公益的機能別施業森林の関係について

(単位：面積 ha)

地域管理経営計画における機能類型区分		国有林の地域別の森林計画における公益的機能別施業森林	当計画区の該当する森林の面積
山地災害防止タイプ	土砂流出・崩壊防備エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山地災害防止機能／土壌保全機能維持増進森林</li> <li>・ 水源涵養機能維持増進森林</li> </ul>	555
	気象害防備エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山地災害防止機能／土壌保全機能維持増進森林</li> <li>・ 快適環境形成機能維持増進森林</li> <li>・ 水源涵養機能維持増進森林（立地条件(海岸)により除外する場合もある）</li> </ul>	—
自然維持タイプ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健文化機能維持増進森林</li> <li>・ 水源涵養機能維持増進森林</li> <li>・ 山地災害防止機能／土壌保全機能維持増進森林（立地条件により区分する場合もある）</li> </ul>	643
森林空間利用タイプ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健文化機能維持増進森林</li> <li>・ 水源涵養機能維持増進森林</li> <li>・ 山地災害防止機能／土壌保全機能維持増進森林（立地条件により区分する場合もある）</li> </ul>	484
水源涵養タイプ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水源涵養機能維持増進森林（分収林については、契約に基づく取扱いを行う）</li> </ul>	6,088
機能類型区分設定外			1
合 計			7,771

本表に用いた略称

略 称	正 式 名 称
水源涵養機能維持増進森林	水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林
山地災害防止機能／土壌保全機能維持増進森林	土地に関する災害防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林
保健文化機能維持増進森林	保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林
快適環境形成機能維持増進森林	快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

## ア 山地災害防止タイプにおける管理経営の指針その他山地災害防止タイプに関する事項

山地災害防止タイプにおいては、山地災害による人命・施設の被害の防備、気象害による環境の悪化の防備機能の維持増進を図るため、適切な間伐の実施や長伐期施業、育成複層林へ導くための施業等の推進に努め、必要に応じて施設の整備を図ることとし、次のとおり、土砂流出・崩壊防備エリア及び気象害防備エリアに区分して取り扱うものとする。

なお、本計画区における山地災害防止タイプの面積は下表のとおりである。

管理経営の詳細は、別冊「森林の管理経営の指針」に示すとおりである。

### ① 土砂流出・崩壊防備エリア

土砂流出・崩壊防備エリアについては、保全対象や当該森林の現況等を踏まえ、根系や下層植生の発達を促進するために適度な陽光が林内に入るよう密度管理を行うとともに、必要に応じて土砂の流出・崩壊を防止する治山施設等が整備されている森林等に誘導し、又はこれを維持するために必要な管理経営を行うものとする。

### ② 気象害防備エリア

気象害防備エリアについては、風害、飛砂、潮害等の気象害を防備するため、樹高が高く下枝が密に着生しているなど遮蔽能力が高く、諸害に対する抵抗力の高い森林等に誘導し、又はこれを維持するために必要な管理経営を行うものであるが、当計画区に該当する国有林野はない。

山地災害防止タイプの面積

(単位：ha)

区分	山地災害防止タイプ	うち、土砂流出・崩壊防備エリア	うち、気象害防備エリア
面積	555	555	—

**イ 自然維持タイプにおける管理経営の指針その他自然維持タイプに関する事項**

自然維持タイプについては、自然の推移に委ねることを原則として、保護を図るべき森林生態系を構成する野生動植物の生息・生育に資するために必要な管理経営を行うものとする。

また、希少な野生動植物の生息・生育に資するために必要な森林、遺伝資源の保存に必要な森林等については、保護林に設定する。

なお、本計画区における自然維持タイプの面積は下表のとおりである。

管理経営の詳細は、別冊「森林の管理経営の指針」に示すとおりである。

自然維持タイプの面積 (単位：ha)

区 分	自然維持タイプ	うち、保護林
面 積	643	175

**ウ 森林空間利用タイプにおける管理経営の指針その他森林空間利用タイプに関する事項**

森林空間利用タイプについては、保健、文化、教育等様々な利用の形態に応じた管理経営を行うものとし、具体的には、景観の向上やレクリエーションの利用を考慮した森林の整備を行い、必要に応じて遊歩道等の施設の整備を進める。

また、国民の保健・文化的利用に供するための施設又は森林の整備を積極的に行うことが適当と認められる国有林野については、「レクリエーションの森」として選定することとする。

なお、本計画区における森林空間利用タイプの面積は下表のとおりである。

管理経営の詳細は、別冊「森林の管理経営の指針」に示すとおりである。

森林空間利用タイプの面積 (単位：ha)

区 分	森林空間利用タイプ	うち、レクリエーションの森
面 積	484	227

## エ 水源涵養<sup>かん</sup>タイプにおける管理経営の指針<sup>かん</sup>その他水源涵養 タイプに関する事項

水源涵養<sup>かん</sup>タイプにおいては、流域の特性や当該森林の現況等を踏まえ、根系や下層植生の発達が良好な森林、多様な樹冠<sup>かん</sup>\*層で構成される森林等に誘導し、又はこれを維持するために必要な管理経営を行うものとし、これらを維持できる範囲内で森林資源の有効利用に配慮するものとする。

なお、本計画区における水源涵養<sup>かん</sup>タイプの面積は下表のとおりである。

管理経営の詳細は、別冊「森林の管理経営の指針」に示すとおりである。

水源涵養<sup>かん</sup>タイプの面積 (単位：ha)

区 分	水源涵養 <sup>かん</sup> タイプ
面 積	6,088

注)分収林については、契約に基づき伐採する(ただし、保安林等の法令制限がある場合は、その制限に従う)。

### \*【樹冠】

樹冠とは、樹木の上部、枝や葉の集まった部分。

一般に、針葉樹は円錐形、広葉樹は球形やほうき形になりますが、周囲の影響によって変わります。

## (2) 地域ごとの機能類型の方向

当計画区は、上野・大多喜地域、上総地域、湊地域の3地域に大別され、それぞれ重点的に行うべき管理経営は次のとおりである。(図-4参照)

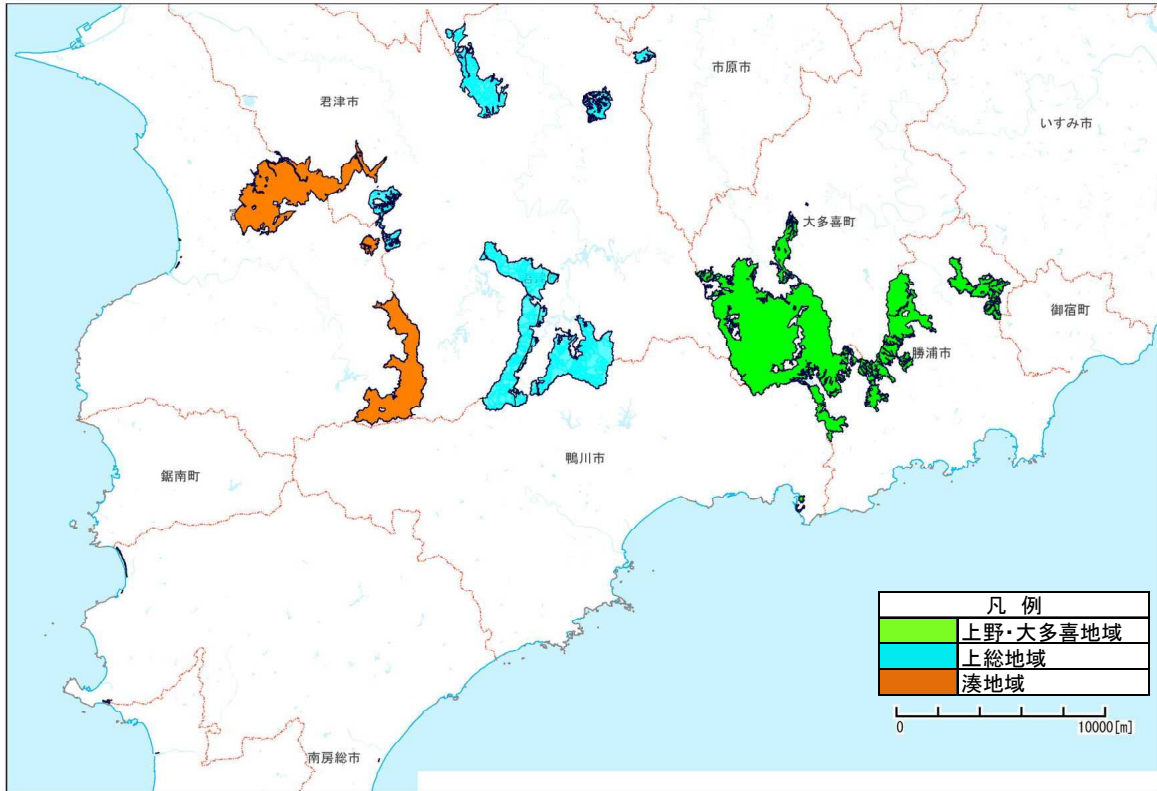


図-4

### ア 上野・<sup>うえの</sup>大多喜<sup>おおたき</sup>地域 (1~20林班、23~54林班、118林班)

本地域は、計画区東部の勝浦市と大多喜町近郊、房総丘陵北面及び南面と鴨川市の内浦湾沿いに位置している。

- ① 本地域の南部、勝浦市及び大多喜町近郊に位置する区域は、養老川等の河川の源流部となっており、水源として重要であることから、主として水源涵養<sup>かん</sup>タイプに区分し、水源涵養機能を重視した管理経営を行うこととする。
- ② 本地域の西部、勝浦ダム周辺に位置する区域は、筒森自然観察教育林に設定し、周辺はハイキングコースとなっている等から、森林空間利用タイプに区分し、保健文化機能を重視した管理経営を行うこととする。

- ③ 鴨川市の内浦湾沿いに位置する海岸林\*は、土砂崩壊防備保安林となっていることから、主として山地災害防止タイプに区分し、山地災害防止機能を重視した管理経営を行うこととする。

※【海岸林】

日本の海岸林は、白砂青松という言葉に表わされるようにマツ林、特にクロマツ林に代表されるものが多くあります。

イ <sup>かずさ</sup>上総地域（57～91林班）

本地域は、当計画区中部、房総丘陵北面と木更津市、君津市近郊に位置している。

- ① 房総丘陵北面に位置する区域は、急傾斜地であることから山地災害防止タイプに区分し、土砂の流出防備を重視した管理経営を行うこととする。

西側は笹川源流部であることから、水源涵養<sup>かん</sup>タイプに区分し、水源涵養機能<sup>かん</sup>を重視した管理経営を行うこととする。

- ② 元清澄山周辺は、自然環境保全地域に指定されていることから、自然維持タイプに区分し、自然環境の維持保全を重視した管理経営を行うこととする。

- ③ 君津市近郊の区域は、小櫃川等の水源として重要であることから、水源涵養<sup>かん</sup>タイプに区分し、水源涵養機能<sup>かん</sup>を重視した管理経営を行うこととする。

- ④ 久留里周辺は、久留里城が介在し、入り込み者が多く、久留里風景林に設定していることから、森林空間利用タイプに区分し、保健文化機能を重視した管理経営を行う。

- ⑤ 本地域西部の区域は、急傾斜地が多く土砂流出防備保安林に指定されていることから、主として山地災害防止タイプに区分し、山地災害防止機能を重視した管理経営を行うこととする。

ウ <sup>みなと</sup>湊地域（92～117林班、119～122林班）

本地域は計画区の西部、富津市東部の房総丘陵北面と鹿野山<sup>かのうざん</sup>、鬼涙山<sup>きなだやま</sup>周辺、南房総市の東京湾沿岸及び太平洋沿岸、館山湾沿岸に位置している。

- ① 房総丘陵北面のうち西面区域は、天然林が多いこと等から主として自然維持タイプに区分し、自然環境の維持保全を重視した管理経営を行うこととする。

北面区域は湊川源流部であり、水源として重要であることから、主として水源涵養<sup>かん</sup>タイプに区分し、水源涵養機能<sup>かん</sup>の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

② 鹿野山及び鬼泪山周辺は南房総国定公園、県立高岩山自然公園に指定されており、分収造林契約地がほとんどを占めている。染川源流部<sup>かん</sup>であり、水源として重要であることから、主として水源涵養<sup>かん</sup>タイプに区分し、水源涵養機能<sup>かん</sup>の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

③ 東京湾、館山湾及び太平洋沿岸に点在する海岸林は、クロマツを中心とした人工林である。

ほとんどが南房総国定公園に指定されていることから、森林空間利用タイプに区分し、保健文化機能を重視した管理経営を行うほか、防風保安林に指定されていることから、生活環境の保全にも配慮することとする。

### 3 森林の流域管理システム<sup>\*</sup>の下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項

民有林関係者等と連携して推進する森林の流域管理システムの下、流域森林・林業活性化協議会等の場を通じ、県、市町村等と密接な連携を図りながら、我が国の森林・林業の再生に貢献していくため、民有林に係る施策との一体的な推進を図りつつ、組織・技術力・資源を活用し、民有林の経営に対する支援等に積極的に取り組むこととする。

具体的には、県、市町村等との連絡調整を図り、流域の課題や地域ニーズの的確な把握に努めつつ、以下に掲げる事項について重点的に取り組むこととする。

#### (1) 低コスト化を実現する施業モデルの展開と普及

県及び林業事業者等と連携し、国有林野をフィールドとして路網と高性能林業機械の組合せによる低コストで効率的な作業システムの現地検討会等を開催し、民有林における低コスト作業システム等の普及・定着に努める。

#### (2) 林業事業者の育成

民有林行政との連携を図りつつ、事業の計画的な発注や立木の供給等を通じて、林業事業者の育成に努める。

また、「緑の雇用」事業において実施する研修等のフィールドとして、国有林野を積極的に提供する。

<sup>\*</sup>【流域管理システム】

日本の森林は流域を単位として158に区分されており、それぞれの流域において民有林、国有林が連携して、森林の整備や林業・木材産業の振興を図ることを目的として「森林の流域管理システム」が進められています。

### **(3) 民有林と連携した施業の推進**

利用期を迎えつつある資源を活用し持続可能な森林経営の実現に向け、民有林と国有林が連携して施業の集約化や路網の整備等を推進していくことが重要であるため、民有林と連携することで施業の効率化や低コスト化等が図られる区域については、森林共同施業団地の設定に向け取り組む。

### **(4) 森林・林業技術者等の育成等**

事業の発注や国有林野の多種多様なフィールドの提供等を通じて民有林の人材育成を支援する。

### **(5) 林業の低コスト化等に向けた技術開発**

民有林への普及を念頭に、当計画区の地形や木材需給に見合った林業の低コスト化等に向けた技術開発を関係機関と連携の下に推進する。

### **(6) その他**

久枝地区の海岸林については、地元久枝地区及び（一財）日本森林林業振興会との森林整備協定を継続し、適切な整備を推進する。

また、委託販売による間伐材等の計画的な供給、上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動及び森林病虫害対策等を推進することとする。



#### 4 主要事業の実施に関する事項

本計画期間における伐採、更新、林道等の計画量は次のとおりである。

事業の実施に当たっては、労働災害の防止に努めるとともに、地域の実情等を踏まえ民間事業者等に委託していくこととしており、計画的な事業の実施等により林業事業者の育成・強化に資するよう努めることとする。

また、効率的な事業実施に努めるとともに、国土保全、自然環境の保全等に十分配慮することとする。

##### (1) 伐採総量<sup>\*</sup> (単位：m<sup>3</sup>)

区 分	主 伐	間 伐	計
計	59,690	103,626 (1,174)	183,716 《20,400》

- 注) 1 ( )は、間伐面積(ha)。  
2 計欄の《 》は、臨時伐採量で内書。  
3 計は、主伐、間伐及び臨時伐採量の合計。

##### (2) 更新総量<sup>\*</sup> (単位：ha)

区 分	人工造林	天然更新	計
計	132	6	138

##### (3) 保育総量<sup>\*</sup> (単位：ha)

区 分	下 刈	つる切	除 伐
計	486	34	72

##### (4) 林道等の開設及び改良の総量

区 分	開 設		拡 張 (改良)	
	路線数	延長量(m)	路線数	延長量(m)
林 道 <sup>*</sup>	10	5,219	7	540
うち林業専用道 <sup>*</sup>	10	5,219	—	—

##### <sup>\*</sup>【伐採総量】

国有林の地域別の森林計画に定める10年分の伐採立木材積と調和が保たれるように、5年分について計上します。

##### <sup>\*</sup>【更新総量】

更新とは主伐により生じる森林造成の基本となるものであり、人工造林と天然更新に区分されます。

更新総量については、前計画における伐採跡地等のほか5年分において計画する主伐箇所へ更新期間を勘案した合計を計上します。

##### <sup>\*</sup>【保育総量】

森林の現況、更新量に基づき、下刈、つる切、除伐等の保育の種類別に施業基準を当てはめ計上します。

##### <sup>\*</sup>【林道】

一般車両など、不特定多数の者が利用し、森林整備や木材生産を進める上で幹線となる道路。

##### <sup>\*</sup>【林業専用道】

森林施業のために特定の者が利用し、林道を補完するための道路。

## II 国有林野の維持及び保存に関する事項

### 1 巡視に関する事項

#### (1) 山火事防止等の森林保全管理

当計画区は、早春から新緑季にかけて林内が乾燥するとともに、山菜採りやハイカー等の入り込み者が多くなることから、山火事発生の危険が高い。

このため、国民共通の財産である豊かな自然環境を保全管理するため、市町村、地元消防団及び地元住民等と連携を密にして、森林保全巡視を強化し山火事の防止、希少な動植物の保護等、森林保全管理に努めることとする。

#### (2) 境界の保全管理

当計画区の国有林野の境界は、海岸から山地に位置し、複雑に入り組んでいる箇所、地形が急峻なため境界標識の亡失のおそれが高い箇所、人家等に隣接している箇所など様々であることから、今後とも巡検<sup>\*</sup>等に努めるなど境界の適切な保全管理を実施することとする。

<sup>\*</sup>【巡検】

国有林野と隣接する私有地との境界に設置された標識等の現況について確認する行為です。

#### (3) 入林マナーの普及・啓発

近年の登山・トレッキングブームや森林との積極的なふれあい志向を背景に、入林者が増加傾向にある。これに伴い、ゴミの投げ捨てや踏み荒らし等が問題となっている。また、近年、廃棄物の不法投棄が増大しているため、これらの早期発見や未然防止が必要である。

このため、国有林野保護監視員や地元自治体、観光協会、ボランティア団体等との連携を強化し、森林に入る場合のマナーの普及・啓発に努めることとする。

### 2 森林病虫害<sup>\*</sup>の駆除又はそのまん延防止に関する事項

松くい虫被害が見られることから、私有林関係者と連携を図りつつ、薬剤の予防散布等の防除対策を講じることにより、まん延防止に努めることとする。

また、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害については、国有林における被害は見られないものの、私有林関係者との情報共有を行い早期発見に努めるとともに、被害が確認された場合は私有林と連携した防除対策を講じることとする。

<sup>\*</sup>【森林病虫害】

樹木又は林業種苗に損害を与える線虫類を運ぶ松くい虫、樹木に付着してその生育を害するせん孔虫類等とされています。

### 3 特に保護を図るべき森林に関する事項

#### (1) 保護林\*

保護林は、野生動植物の生息又は生育の状況、地域の要請等を勘案して、原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、施業及び管理技術の発展等に特に資することを目的として管理を行うことが適当と認められる国有林野を選定することとしており、当計画区では2箇所、175haを保護林に設定している。

保護林については、評価基準を設け統一した調査項目を設定し、モニタリングを実施しているところである。今後は、モニタリング結果の蓄積及び分析を行い、その結果によっては、自然の推移に委ねるだけでなく、必要に応じて人為を加え、保護林本来の設定目的に沿った森林として維持・管理することとする。なお、人為を加える場合は、学識経験者や専門家の意見を聴いて行うこととする。

保護林の取扱いについては、前述の自然維持タイプによるほか、保護林の種類別に次によることを基本とする。なお、学術研究その他公益上の事由により必要と認められる行為、その他法令等の規定に基づいて行うべき行為は、これにかかわらず行うことができるものとする。

また、立入を可能とする区域においては、入林者の影響等による植生の荒廃の防止等の措置が必要な箇所について、標識の設置、歩道の整備等に努めるとともに、学習の場等として国民が利用できるよう努めるものとする。

種 類	箇 所 数	面 積 (ha)
林木遺伝資源保存林	1	170
植物群落保護林	1	4
計	2	175

#### ア 林木遺伝資源保存林

主として林木の遺伝資源を森林生態系内に広範に保存する。

- ① 原則として伐採は行わない。ただし、保存対象樹種の恒久的な存続を図るために必要な場合に限り、枯損木又は被害木の除去を中心とした弱度の伐採を行うことができるものとする。
- ② 更新は、原則として天然更新によるものとし、保存対象樹種の特性を勘案し、必要最小限の更新補助作業を行う。なお、植込み等を行う場合は、保存対象樹種と同一の遺伝形質を有するものを使用する。

#### \*【保護林】

保護林とは、国有林内の貴重な生態系及び自然環境の保護を目的に設定をするものです。

設定目的及び趣旨により「森林生態系保護地域」、「森林生物遺伝資源保存林」、「林木遺伝資源保存林」、「植物群落保護林」、「特定動物生息地保護林」、「特定地理等保護林」、「郷土の森」に区分します。

## イ 植物群落保護林

我が国又は地域の自然を代表するものとして保護を必要とする植物群落及び歴史的、学術的価値等を有する個体の維持を図り、併せて森林施業・管理技術の発展、学術研究に資する。

- ① 原則として伐採は行わないものとするが、保護すべき植物群落の維持のために必要な場合は、下刈、つる切、除伐等の保育を行う。
- ② 伐採及び搬出に当たっては、保護の対象とする植物を損傷しないよう特に留意する。
- ③ 保護の対象とする植物群落が衰退しつつある場合であって、更新補助作業又は保育を行うことが当該植物群落の保護に必要なかつ効果的であると認められるときは、まき付け、植込み、刈出し、除伐等を行う。

## (2) 緑の回廊

該当なし。

#### 4 その他必要な事項

##### (1) 野生動物等による被害に関する事項

当計画区においては、ニホンジカの生息数の増加及び生息域の拡大により造林木の被害が見られることから、今後も地方公共団体による有害鳥獣駆除と連携を図りながら対策を講じていくこととする。

##### (2) 希少猛禽類\*の生息に関する事項

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日法律第75号)において指定されている森林性猛禽類の生息には、餌動物の生息環境を含め、採餌・営巣環境が大きく影響する。

このため、希少猛禽類の生息地等の具体的な情報については、職員等による調査、既存の調査結果の収集、学識経験者や地元自然保護団体等からの提供を受ける取組等により把握に努めるとともに、学識経験者等との情報交換等を緊密に行っていく中で、猛禽類と林業との共生に取り組むこととする。

このような取組の中で、毎年度の事業計画の検討段階や事業の実施段階において、事業(予定)箇所及びその周辺について希少猛禽類の情報が得られ、繁殖の可能性が高いと判断される場合には、関東森林管理局に設置している「希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する検討委員会」に諮るなどにより、適切に対応することとする。

##### (3) 溪畔\*周辺の取扱いに関する事項

溪畔周辺については、野生動植物の生息・生育場所や移動経路の提供、種子などの供給源等として、生物多様性の保全上重要な役割を担っているため、本来成立すべき植生による上流から下流までの連続性を確保することにより、よりきめ細やかな森林生態系ネットワークの形成に努めることとする。

また、溪畔周辺の整備について、水質保全の向上や野生動植物の生息・生育環境の保全を図る観点から、防災面にも配慮しつつ、溪流沿い等の保護樹帯等を効果的に配置していくこととする。

##### (4) その他

希少種の保護や移入種の侵入防止の取組については、関係機関、地域住民、ボランティア、NPO等とも連携を図りながら行うこととする。

##### \*【猛禽類】

肉食性のタカ目、フクロウ目の野鳥。猛禽類は生態系の食物連鎖の頂点に位置する肉食鳥類であり、もともと個体数が少ないが、開発や環境汚染などで繁殖率が低下しています。食物連鎖の頂点に位置する猛禽類の生息環境を保全することは、森林全体の生物多様性を保全することにつながります。

##### \*【溪畔】

常時水流のある溪流や河川、湖沼、湿原等の水域と強い結びつきを持つ範囲にある森林で、流域全体の生物多様性や公益的機能の発揮上重要な役割を担っています。

### Ⅲ 林産物の供給に関する事項

#### 1 木材の安定的な取引関係の確立に関する事項

当計画区の国有林野は、70%が人工林となっており、このうち5～8齢級（21～40年生）の間伐適期林分が23%、9齢級（41年生）以上の高齢級林分が71%を占めている。

このため、主伐については、森林吸収源対策として将来にわたる二酸化炭素吸収量を確保する観点から齢級構成の平準化のために行う主伐及び分収林契約に基づく主伐が、間伐については間伐適期林分や長伐期化（概ね100年生）に向けた高齢級林分の間伐が主体となることから、これらを計画的に進め、効率的に搬出し、供給に努めることとする。

なお、当計画区では、生産・流通・加工の各段階が小規模・分散・多段階となっており、木材需要者のニーズに応じて、品質・性能の確かな製品を低コストで安定的に供給する体制を確立することが課題となっていることから、国有林野事業においては、システム販売等による林産物の安定供給等を通じて、地域の川上・川中・川下の関係者との連携を強化し、地域材の安定的・効率的な供給体制の構築に寄与するよう一層努めることとする。

#### 2 その他必要な事項

国有林野事業で実施する治山・林道工事において間伐材の利用を積極的に推進するとともに、地方公共団体等関係機関との間で間伐材等の木材需給についての情報交換を進めることを通じ、河川・砂防事業、その他の公共事業等多様な分野への間伐材の利用促進を図ることとする。特に、河川工事等の公共工事に伴う小径木の需要に対しては、資源の状況を考慮しながら積極的に対応することとする。

また、きのこ栽培用原木等の供給については、住宅地、田畑、道路等周辺で森林病虫害等の被害により、国民の生命・財産に支障となる可能性等のある里山林、過去に薪炭材生産を目的として利用されてきた里山林及び人工林内の広葉樹小径木等の利用を必要に応じて考慮するとともに、国有林野の公益的機能の発揮に支障のない範囲内において、地域産業の振興に寄与することを目的とした土石、山菜等副産物の供給についても考慮し、地域産業の振興に寄与することとする。

## IV 国有林野の活用に関する事項

### 1 国有林野の活用の推進方針

当計画区には筒森自然観察教育林や麻綿原、久留里風景林を設定しており、レクリエーション等保健休養の場として、多くの人々に利用させている。

これら自然環境に恵まれ首都圏に近いこの地域においては、自然環境の調和に配慮しつつ、優れた景観を有する森林、文化遺産等の観光資源を活かし、自然とのふれあい・教育文化・保健休養等の多種多様な国有林野の活用を図るものとする。

今後も、レクリエーションの森については、国民が気軽に森林や自然とふれあう拠点として、地方公共団体等と連携して自然環境に配慮しつつ、安全性の高い施設整備等に努めるとともに、各種情報手段の活用を通じて、花、植物、紅葉、きのこ等四季折々の見所等の情報提供に努めることとする。

なお、国有林野の活用に当たっては、国土の保全、自然環境の保全等公益的機能との調和を図ることとする。

#### (1) レクリエーションの森

レクリエーションの森は森林空間タイプのうち、自然景観、森林の保健・文化・教育的利用の現況及び将来の見通し、地域の要請等を勘案して、国民の保健・文化・教育的利用に供する施設又は森林の整備を特に積極的に行うことが適当と認められる国有林野を選定することとする。

当計画区は、大正 14 年から昭和 3 年にかけて国内外の樹種 54 科 179 種の樹木を造成した筒森自然観察教育林、麻綿原及び久留里風景林を設定している。

レクリエーションの森の管理経営については、I-2-(1)ウの森林空間利用タイプによるほか、個別に作成する管理経営方針書によることとする。

また、施設の整備は、風致の保護、国土及び自然環境の保全等に配慮するとともに、レクリエーション利用の目的に合致した施設を整備することとし、法令により制限のある場合には所定の手続きを行うこととする。

種 類	箇所数	面積 (ha)
自然観察教育林	1	104
風景林	2	123
総 数	3	227

## 2 国有林野の活用の具体的手法

主な活用の目的とその手法は以下のとおりである。

- (1) 建物、水路等－貸付、売払等
- (2) 国民参加の森林（法人の森林）、森林環境教育の森（学校林）等－分収造林契約等
- (3) ダム、公園、道路、電気事業施設等の公共用施設、地域産業の振興－貸付、売払等
- (4) レクリエーション利用－使用許可等
- (5) ボランティア活動、森林教育の場－協定等

## 3 その他必要な事項

国有林野の活用に当たっては、各種法令等を遵守しつつ、当該地域の市町村等が進める地域づくり構想や土地利用に関する計画等との必要な調整を図ることとする。

また、不要となった土地等の活用に向け、物件・土地売払情報公開窓口及びインターネットによる情報の提供と、需要の掘り起こしに努めることとする。



## V 公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

### 1 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な方針

国有林野に隣接・介在する民有林野の中には、小規模で孤立分散し立地条件が不利であること等から森林所有者等による施業が十分行われていないものが見られ、その位置関係により、当該民有林野における土砂の流出等の発生が国有林野の発揮している国土保全等の公益的機能に悪影響を及ぼす場合がある。

このため、次の要件を備えた箇所において公益的機能維持増進協定を活用し、国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るために有効かつ適切なものとして、森林施業の集約化を図るための林道や森林作業道の開設とこれらの路網を活用した間伐等の施業等を民有林野と一体的に実施する取組を推進することとし、このことを通じて民有林野の有する公益的機能の維持増進にも寄与することとする。

- (1) 国有林野に隣接又は介在し、単独では効率的な森林経営をなし得ない民有林であること
- (2) 市町村森林整備計画に定められた公益的機能別施業森林の区域内であること
- (3) 森林の利用を不当に制限するものでないこと
- (4) 協定を締結しようとする区域内に存在する民有林又は当該区域に近接する民有林において、県が行い又は行おうとしている治山事業の実施に関する計画との整合性に配慮したものであること

## VI 国民の参加による森林の整備に関する事項

### 1 国民参加の森林に関する事項

自主的な森林整備活動へのフィールドの提供や必要な技術支援、情報の提供などを通じ、国民の森林へのふれあいの場の提供に努めることとし、「ふれあいの森」、「遊々の森」、「社会貢献の森」を設定している。

なお、本計画においては、協定締結による国民参加の森林づくりの対象予定区域は定めないが、新たに国有林野をフィールドとする活動の要望があった場合には、積極的に応えていくこととする。

#### (1) ふれあいの森

「ふれあいの森」は、自主的な森林整備活動等を目的とした植栽、保育、森林保護等及びこれらの活動と一体となって実施する森林・林業に関する理解の増進に資する活動を行うものである。

当計画区では、千葉県森林インストラクター会による「FIC君津の森」など、各団体が自主的な森林整備活動を実施していることから、引き続き各種情報の提供を行うなど、これらの活動を支援することとする。

名 称	面積(ha)	位置 (林小班)
FIC君津の森	0.87	95 る3
交流の森	2.07	103 ち、そ 104 む

#### (2) 社会貢献の森

「社会貢献の森」は、水源涵養や森林の持続的経営の普及啓発等に資するもので、植栽、保育、森林保護等の森林整備及びこれらの活動と一体となって実施する森林・林業に関する理解の増進に資する活動を行うものである。

当計画区では、(一社)ガールスカウト千葉市協議会が「スカウトの森」として、森林整備活動等を行っていることから、引き続き各種情報の提供を行うなど、これらの活動を支援することとする。

名 称	面積(ha)	位置 (林小班)
スカウトの森	1.45	89 い3

### (3) 遊々の森

「遊々の森」は森林環境教育を目的とした森林教室、自然観察、体験林業等の体験活動を行うものである。

当計画区では、千葉県森林インストラクター会が「遊々の森千葉」として、森林環境教育を推進していることから、各種情報の提供を行うなどこれらの活動を支援することとする。

名 称	面積(ha)	位置(林小班)
遊々の森千葉	1.97	95 る4～る7

## 2 分収林に関する事項

分収林制度<sup>\*</sup>を活用した森林整備への国民参加を推進することとし、特に、上下流の相互理解に基づく森林整備や企業等による社会貢献活動としての森林整備等の促進に努めることとする。

## 3 その他必要な事項

### (1) 森林環境教育の推進

学校、地方公共団体、企業、ボランティア、NPO、地域の森林所有者や森林組合等の民有林関係者等多様な主体と連携しつつ、森林環境教育の推進を図ることとする。

また、森林管理事務所主催による児童・生徒等を対象とした体験林業や森林教室、教職員やボランティアのリーダー等に対する普及啓発や技術指導など、森林環境教育に対する波及効果が期待される取組にも努めることとする。

さらに、森林環境教育のためのプログラムや教材の提供、指導者の派遣や紹介等を行うため、森林環境教育の実施に関する相談窓口の活性化に努めることとする。

### (2) 森林の整備・保全等への国民参加

NPO 等が行う自主的な森林整備等へのフィールドの提供や必要な技術指導を行うなど、国民による国有林野の積極的な利用を推進することとする。

#### <sup>\*</sup>【分収林制度】

国有林野事業における分収林は、国有林内に契約の相手方が造林・保育を行う「分収造林」と、国が造林・保育を行った生育途上の森林について、契約の相手方に費用の一部を負担してもらう「分収育林」があり、森林を造成し、伐採後に収益を一定の割合で分け合う制度です。

## Ⅶ その他国有林野の管理経営に関し必要な事項

### 1 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項

#### (1) 林業技術の開発

平成 25 年度に定めた「関東森林管理局技術開発目標」に基づき、森林・林業の再生に資する造林・保育・生産技術の確立、公益的機能の高度発揮のための森林施業及び保全・利用技術の確立、効率的な森林管理及び健全な森林育成技術の確立を課題とし、森林技術・支援センターによる各種技術開発及び森林管理事務所に設定している各種試験地等における技術開発に取り組むこととする。

また、民有林関係者との技術交流の一環として、林業普及指導員等との連携を深めながら、林業技術の向上に取り組むこととする。

#### (2) 林業技術の指導・普及

国有林野事業の中で開発、改良された林業技術については、国有林野内での活用を図るとともに、各種試験地等の展示などを通じて地域の森林・林業関係者等への普及を図ることとする。

なお、自らが主伐・造林等の事業発注者であるという国有林野事業の特性を活かし、コンテナ苗※を用いた低コスト造林など、先駆的な技術や手法についての事業レベルでの検討を行い、現地検討会等の開催により地域の森林・林業関係者等への普及を図ることとする。

さらに、森林管理事務所において、木と緑に関する国民からの問い合わせに応じることとする。

※【コンテナ苗】

造林事業における初期投資の低コスト化を目的に、専用のコンテナ（マルチキャビティコンテナ）を利用し育苗した苗です。

### 2 地域の振興に関する事項

地域の振興に寄与することは、国有林野事業の重要な使命の一つであることから、国有林野内の未利用資源（森林景観を含む）の発掘及び情報提供、地方公共団体等からの相談受付体制の充実、地方公共団体等が推進する地域づくりへの積極的な参加等に努めつつ、森林及び森林景観の整備や林産物の供給、国有林野の活用、森林空間の総合利用、人材育成をはじめとした民有林への指導やサポート等国有林野の諸活動を通じて、地域産業の振興、住民の福祉の向上等に寄与するよう努めることとする。

### 3 その他必要な事項

特になし。